



06 有限会社名栗温泉(大松閣)

令和3年8月認定



所在
埼玉県飯能市下名栗917-1

主な業務内容
旅館および飲食店

従業員
47人

設立年月
1988年7月

地震 リスク

最大震度6強(立川断層地震)、液状化の可能性は低い

水害 リスク

洪水(対象河川:入間川)、浸水の可能性は低い

概要

御社の概要を教えてください。

当社は、首都圏のお客様をターゲットに、**自然環境の良さとアットホームな雰囲気**を強みとして営業しております。お客様は個人・ファミリーが中心です。大浴場の他に三か所の貸切風呂があり、ご好評をいただいております。また、料理は地のものをふんだんにつけた会席料理です。

年間で約1万人のお客様にご利用いただいております。

ただ、**新型コロナによる影響は大きく**、売り上げが9割減少する月が発生するなど瀕死のダメージを受けた時期もありましたが、現在は2019年のコロナ前と比較し、ほぼ80%に至っており、少し安堵しています。

きっかけ

事業継続力強化計画を策定したきっかけを教えてください。

「歴史ある宿をつぶすわけにはいかない」ですが、その他次のような理由からです。

- ①災害発生時において、何よりもお客様の人命を最優先とし安全を確保すること
- ②宿泊業として、災害発生時も地域の方の安全な受け入れ施設として地域に寄与すること
- ③お客様には、災害に強い宿泊施設として安心してご利用いただきたいこと
- ④一昨年の台風19号の影響で、**目の前の沢が氾濫しそうになり、沢の自然堤防が一部変形**したこと

苦労

計画策定で苦労した事と、その解決策を教えてください。

当社全体としての**バランスの良い強化策**を中心テーマに策定しました。これは、当社の施設が、本館、新館、レストラン棟、従業員寮(男子寮、女子寮)と複数あるためと、**地震対策に加え、感染症の予防対策が急務**になったためです。

感染症予防対策は、一般的に出回っている感染予防対策を基礎にして徹底し、今は高い予防レベルを維持することが習慣的にできるようになりました。

社内外の変化

事業継続力強化計画を策定したことで、社内外で変化したことを教えてください。

今までは、地震対策で言えば、横揺れ対策、停電対策、防火対策など個別対策に目を奪われていましたが、この計画策定中から「**お客様の安全を確保するため**」を中心にして、**全体の対策**が見えるようになりましたので、従業員への防災教育・訓練が説明しやすくなりました。

従業員との災害対策の共有がすすみ、これに伴い緊急時に向けての業務情報(例えば、整理整頓方法の統一化、**飲み水の確保方法、非常発電機の使い方**、大型冷蔵庫の転倒防止など)の共有化についても**意識の変化**が望む方向に向かうようになりました。

進捗

策定した事業継続力強化計画の進捗を教えてください。

- ①館内の避難通路の整備の徹底
 - ②**お客様の避難誘導訓練の徹底**
 - ③エレベータの閉じ込め確認体制の整備
 - ④**社内ルール(緊急時のボイラーの取り扱い、停電時・復旧時の作業手順など)の整備(進行中)**
- また、外部の方からは見えませんが、災害で被災した際の財務対策の充実があります。

感想

事業継続力強化計画を策定した感想を教えてください。

被害をもたらす災害の把握、事前対策、被災時の安否確認方法、事業再開に向けた活動、被災時の財務と、**全体像の見える化**が大きいと思います。

策定までは、公社専門家の伴走があり**短期集中(10日間)**でできました。

今は、申請書に記述した事前対策などの実行を着々と進めていく中で、**従業員との協力体制や意識の共有**が策定の効果があったと思います。

感想

計画の策定を他の事業所にも勧めるとしたら

BCPなどは地味と言えば地味ですが、**お金になる業務以外の重要で必要な業務**でして、事業継続力強化に留まらない**会社のレベルを引き上げる機会**になりますし、中小企業は整理・整頓・戻りなどをつい後回しになりがちですので、その点でも**会社の活性化**になりますので、お勧めしたいと考えています。

感想

紹介者からの一言(埼玉県物産観光協会)

先代は村長もされていて防災の意識が高かったとお話が印象的でした。観光、特に宿泊業はお客様の安全安心が大前提で、**災害時は地域の避難所**となることもあります。名栗温泉大松閣様をモデルに、**安全安心な埼玉観光ブランド**づくりに向けてBCPを県内に広めてまいります。